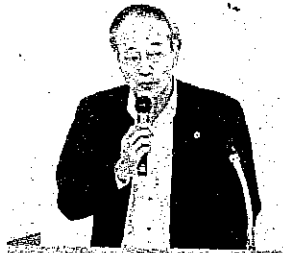


工法の特長など解説

ミラクルソル協会が講習会



挨拶する原裕理事長

ミラクルソル協会(原裕理事長は25日、福岡市中央区天神のアクロス福岡で第20回「ミラクルソル工法」技術講習会を開催した。講習会には官公庁、建設コンサルタント、建設会社などから約200人が参加。国土交通省九州地方整備局企画部技術調整管理官の加治賢祐氏が特別講演を行い、原理事長と協

会顧問で佐賀大学教授の荒木宏之氏がミラクルソル工法の概要や特長を説明した。

ミラクルソルは空き瓶などのガラス廃材に発泡剤を混ぜ、約900度の高温で焼成したリサイクル製品。軽量で強固な特性を持ち、製造条件により比重や吸水性、非吸水性の調整が可能。同協会では緑化や水質浄化、軽量盛土などミラクルソルを使った29工法を提案している。

冒頭、原理事長は「21世紀は環境の時代になる」ということで、1995年からガラス廃材の再資源化を目的としてミラクルソルの開発を始めた。土木や水質浄化など29工法の情報を全国へ発信しており、本日の講習会が皆様の業務の一助になれば」と挨拶した。加治氏は「最近の公共事業の動向につい

て」の演題で特別講演。冒頭で4月に発生した熊本地震の被災状況などを写真で紹介し、九州地整の活動や復旧計画などを説明した。

講演では少子化や高齢化で技能労働者が減る見通しの建設業界について将来の担い手育成、生産性の向上が課題であることを指摘。設計労務単価に対する実勢価格の適切な反映、社会保険未加入対策、工事や業務でのICT技術の活用など、建設産業の担い手確保に向けた九州地整の取り組みを紹介した。

原理事長は「多目的環境材料ミラクルソルの環境負荷低減技術」をテーマにミラクルソルの開発背景や目的、環境負荷低減の必要性などを丁寧に解説。水質浄化などの水環境工法、軽量盛土や透保水

性舗装などの環境土木工法の施工事例を取り上げ、それぞれの工法の特長を解説した。

荒木氏は水質浄化分野でのミラクルソルの魅力について「比表面積や空隙率が大きく、物性の自由度が高い。水質浄化における接触材としての多くの要件を備えている」と紹介。将来性については「ゼオライト化ミラクルソルやハイブリッド吸着材の開発、研究を続けており、有害物質の吸着や有用資源の回収など様々な分野での適用可能性が高い」と話した。



会場の様子